

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 20 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530912

研究課題名（和文） 専門分野別教育プログラム認定・評価導入への実証的研究

研究課題名（英文） Reserch on the practical way to introduce the accreditation system on the educational programs

研究代表者

堀井 祐介 (HORII YUSUKE)

金沢大学・大学教育開発・支援センター・教授

研究者番号：30304041

研究成果の概要（和文）：アメリカ、ヨーロッパにおける専門分野別教育プログラム認定・評価システムについて調査研究してきた結果、専門分野別教育プログラムアクレディテーション活動の実態および具体的な評価者選任の仕組みを明らかにすることが出来た。また、ヨーロッパにおいては、機関別アクレディテーションと専門分野別教育プログラムアクレディテーションが混在している状況について、アメリカにおいては、アクレディテーション機関自身を認証する仕組みについても明らかになった。

研究成果の概要（英文）：We studied the educational program accreditation systems both in the United States and Europe. Consequently, the pictures and the mechanisms of these systems which includes the procedures of appointments of peer reviewers are illustrated. Additionally, we made clear the following two aspects. In Europe, we found that the accreditation systems vary among countries. Some countries implement the institutional accreditation, while the others implement the educational program accreditation or both kinds of accreditation. In the U.S., we found the procedures to recognize the accreditation bodies.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：高等教育政策

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：大学評価、専門分野別教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

高等教育に関する質保証、評価については、機関別と専門分野別の2つがある。現在の世界的な流れとしては、高等教育の質保証、国際比較という観点から、専門分野別教育プログラム認定・評価への関心が高まってきている。専門分野別教育プログラムについては、

専門職としての学位および資格に結びつくため、国境を越えた専門職業人の移動という観点から、世界貿易機関(WTO)等でも議論されている。

専門分野別教育プログラム質保証については、アメリカにおいては、全米公共政策大学院協会(NASPAA, National Association of

Schools of Public Affairs and Administration)」が公共政策大学院の質保証システムとして機能していることを始めとして、高等教育機関基準認定協議会(CHEA, Council for Higher Education Accreditation)が認定を与えている各学協会等による専門分野別教育プログラム認定(accreditation)・評価(evaluation)が実施されている。

また、ヨーロッパでも、ボローニャプロセスによる欧州高等教育圏(European Higher Education Area)構築の流れの中で、学生、教職員の流動性促進、学位流通性の担保の考え方から、欧州高等教育質保証協会(ENQA, European Association for Quality Assurance in Higher Education)や欧州高等教育質保証機関登録制度(EQAR, European Quality Assurance Register for Higher Education)の活動を通して、個別プログラムの認定・評価の動きが活発化しており、各学協会主催の国際会議においても、それぞれ関連する専門分野別評価についての議論が行われている。

日本では、中央教育審議会等で「分野別の自己点検・評価及び専門職大学院以外の分野別評価」が重要なテーマとされており、文部科学省から日本学術会議に「大学教育の分野別質保証の在り方に関する審議依頼」と題して「将来的な分野別評価の実施を視野に入れて、各分野の到達目標の設定、コア・カリキュラムやモデル教材の開発を促進すること等について」の検討依頼がなされていた。また、OECDによる高等教育機関における専門分野別学習成果の評価(AHELO: Assessment of Higher Education Learning Outcomes)に関する国際的な検討の可能性を探るフィージビリティ・スタディ(試行的に試験を行い、本格的な実施可能性を明らかにすること)実施についても検討されていた。

このように、日本でもようやく専門分野別評価を実施する動きが出てきた中、海外を含めた先行事例の情報収集、専門分野別教育プログラム認定・評価の具体的実施方法、スケジュール等の提案にまでつながる研究が必要であるとの着想に至った。

2. 研究の目的

アメリカ、ヨーロッパにおける専門分野別教育プログラム認定・評価システムおよびその運用実態を調査することにより、日本の高等教育の国際競争力向上につながる専門分野別教育プログラム認定・評価の仕組みの日本導入へ向けての実証的研究を行い、専門分野別教育プログラムア krediyasyon 活動の実態および具体的な評価者選任の仕組みを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

研究分担者と役割分担を行い、平成22年度は、EQAR (European Quality Assurance Register for Higher Education)、EUA (European University Association)、ACE Denmark、UBST (Universitets- og Bygningsstyrelsen)、平成23年度は、CHEA (Council for Higher Education Accreditation)、NASPAA (National Association of Schools of Public Affairs and Administration)、Commission on Collegiate Nursing Education (CCNE)、Commission on Accreditation, American Psychological Association (CoA-APA)、Association of Specialized & Professional Accreditors (ASPA)、平成24年度は、FIBAA、ASIIN、EASPA (European Alliance for Subject-Specific and Professional Accreditation & Quality Assurance)、evalag (Evaluationsagentur Baden-Württemberg)、ZEvA (Zentrale Evaluations- und Akkreditierungsagentur)、Akkreditierungsrat について書面調査および訪問調査により研究を行い、調査により明らかになった成果について、学内外の研究会、学会(日本高等教育学会等)で発表を行い、関係者間への情報共有を進めた。

4. 研究成果

平成22年度は、EQAR (European Quality Assurance Register for Higher Education)、EUA (European University Association)、ACE Denmark、UBST (Universitets- og Bygningsstyrelsen)について書面調査および訪問調査研究を行った。

EQARの目的は、欧州地域において展開される高等教育の質保証の透明性を高めることにある。そのために、登録を希望する機関・団体から申請を受けつけ審査に基づき適格と認められたものを登録・公表することを役割とする。専門分野別レビューにおける当該専門分野に精通した評価者の決定方法やその参加者の数は、団体ごとにまちまちである。学会や関係団体が推薦するようなケースもある一方で、評価機関が評価者への評価も行いつつみずから”specialist pool”をつくっておくケースも多い。また、共同学位に対する質保証についてもうかがってきた。当国間でメインとする評価対象が違うようなケース(例:A国は機関別評価、B国はプログラム評価)は複雑な様相を呈してくる。また、認証機関が3つ以上関与してくるケースも複雑になりがちであるなどの情報が得られた。EUA事務局では、欧州全域におけるプログラム評価と機関別評価実施状況についての情報が得られたが、この時点では、プログラム評価がフィットする国と機関別評価

がフィットする国とがいかなる理由で分化しているか、その線引きの根拠は何かについての情報は得られなかった。

ACE Denmark では、ア krediteーションプロセス、ア krediteーション基準等についての調査を行った。特に興味深かったのは、審議・審査を行う panel メンバーの構成であった。メンバーは3名で、当該教育プログラム関連分野の専門家1名、外部（卒業生・修了生の雇用可能性のある企業から）1名、学生1名であり、専門家は、当該教育プログラムを提供している大学からの推薦が多いとのことであった。大学からの報告書がデンマーク語で書かれているため、それを読んで理解できるスウェーデン、ノルウェーの大学から選ばれることが多い。どうしても北欧地域に専門家がいけない場合は、ACE Denmark が英訳することもある。もちろん、当該大学との利害関係が無いことは事前に確認される。専門家の選定を関連学会に依頼することはない。外部（雇用可能性のある企業）からの1名は、業界団体に依頼するか ACE Denmark が独自に探す。この場合も、当該大学と利害関係を事前にチェックする。雇用可能性の関係および利害関係特定の問題からデンマーク人が選ばれる。海外の企業人だと利害関係特定が難しい。学生1名の選出は、学生が登録された ACE Denmark のデータベースから選ぶ、大学に推薦を依頼する、学生団体からの推薦のいずれかの方法による。この場合も留学生ではなく、デンマーク人で利害関係の無い学生から選ぶことになる。

ACE Denmark が実施するア krediteーションの目的は、教育の質、労働市場との関連性をコントロールすることなので、ア krediteーション結果が、直接的には、資源配分とは結びついていないが、最悪の場合、その教育プログラムに対する補助金が出ないこともあり得る。もし補助金停止となった場合は、法律で科学技術開発大臣がその時在籍している学生のために別の学習場所、機会を探すことを義務づけている。

UBST としては、「教育プログラムア krediteーションは、官僚的で文書作成作業中心であり、現場の大学の負担が大きい。労働市場との関係を示すにも大きなリソースを必要としている。新規教育プログラム導入についても、認定作業期間が長いとの批判もある。また、教育プログラムア krediteーションの場合、静的、定点観測的となり、動的な質保証、質向上につながらない。現時点では、教育プログラムア krediteーションは、質保証の役割は果たしているが、教育関連情報の1つに過ぎない。」と考えており、機関別ア krediteーションへの移行を検討中とのことであった。

平成23年度は、CHEA (Council for Higher

Education Accreditation) 、 NASPAA (National Association of Schools of Public Affairs and Administration) 、 Commission on Collegiate Nursing Education (CCNE) 、 Commission on Accreditation, American Psychological Association (CoA-APA) 、 Association of Specialized & Professional Accreditors (ASPA) について書面調査および訪問調査研究を行った。

CHEA では、ア krediteーション団体による教育プログラム評価の有効性として、大学の質を教育の視点から図ることを前提に、とりわけ学位と学位授与に至る教育プロセスの質の評価が重視されており、具体的には、それぞれの学位について、当該学位を取得するということが、如何なる知識・能力を修得した証しとなるのか、という視点が重視され、その観点から、教育プログラム評価を行う必要性が強調されている。また、教育プログラム別ア krediteーションを担う組織は、通常、学協会や専門職団体といった大きな組織中の一部門として置かれていること、その利点は、財務が盤石であることにより、経営の安定性が保障される点にある。その一方で、ア krediteーションが、当該分野の学協会や専門職団体の影響下で行われる危険性を完全には排除できず、アカデミック・フリーダムを擁護する立場から、いくばくかの懸念もあるが、現状において、これらア krediteーション部門におけるプロセスや意思決定の局面における独立性、自律性は確保されており、危惧されるような問題は生じてはいない。ちなみに、米国では、CHEA に加えて連邦教育省 (USDE, U.S. Department of Education) によるア krediteーション機関の認証 (recognition) も行われている。USDE 認証機関によるア krediteーションは連邦政府奨学金受給要件となっているため USDE はある種の「有意性」のある「認証活動」を展開している。ア krediteーション団体には、CHEA もしくは USDE のいずれかの認証を受けることが強く要請されている。具体的なア krediteーション活動において、近年、アウトカム評価、すなわち、資格試験への合格の状況、卒業率、就職率などを評価指標とすることが強く主張されてきており、これらに伴う教育の質保証への連邦政府からの圧力が高まってきている。

NASPAA は、自立した独立のア krediteーション団体である。かつて、NASPAA は、会員制組織である ASPA (American Society for Public Administration) の一部門を成していた時期もあったが、公共政策分野の教育の質の向上を専ら探求することを目的に、独立の評価機関として自立した。ASPA とは、現在も良好な関係にある。また、地方自治体職員の

国際的職能団体である ICMA (International City/County Management Association) とも、評価員派遣の協力を受けるなど、密接な協力関係を維持している。このほか、公共政策大学院のアウトカムを構成する「コンピテンシー」モデルの策定などに当り、産業界とも連携している。NASPAA は、CHEA の認証は受けているが、USDE の認証は受けていない。NASPAA は、ラーニング・アウトカムの視点に立脚した評価を標榜し、2009 年にアクレディテーション基準を改正した。

CCNE は AACN (American Association of Colleges of Nursing) の一部門である。CCNE の職員は AACN の職員であり、活動拠点としての事務所も AACN のものを使っている。しかし、理事会、予算は独立しており、この点が、USDE による認証要件となっている。CHEA による認証は現在は受けていない。CCNE では、1 人 1 人の学生では無く、学生集団としてのアウトカム (aggregate outcomes) を考えている。これは、同じ教育プログラムを受けたグループとして看護師資格試験 (NCLEX, National Council Licensure Examination) 合格率などを見る。アウトカムについては、最低限のしきい値を決めることが USDE から求められており、それに沿う形で現在、アクレディテーション基準の改訂作業中である。APA は心理学関連の会員団体であり、その中に Commission on Accreditation (CoA) がおかれアクレディテーションを担当している。APA と CoA の間には、防火壁のようなものがある。CoA が APA から影響を受けないようになっており、CoA の意志決定は独立性を保っている。APA は、CHEA、USDE の双方から認証を受けている。CoA のアクレディテーションにおいてアウトカムのデータ (evidence) が提供される。量的だけでなく、質的データ (例えば、研究、実践に関するポートフォリオなど) も提出を求めている。

ASPAA は、全米で一番大きい専門分野別アクレディテーション団体の連合体で、約 60 の専門分野別アクレディテーション団体がメンバーである。ASPAA の活動の主たるものとしては、専門分野別アクレディテーションに対する統一の声を出すことである。また、分野が異なっても、アクレディテーションプロセスは似ているため、メンバーに対して基準、ガイドライン、Code of Good Practice などを提供したりもしている。ただしこれらについては、基本的な考え方のみ提供であり、具体的な基準等は各団体の自主性を尊重している。

平成 24 年度は、FIBAA、ASIIN、EASPA (European Alliance for Subject-Specific and Professional Accreditation & Quality Assurance)、evalag (Evaluationsagentur Baden-Württemberg)、ZEvA (Zentrale

Evaluations- und Akkreditierungsagentur)、Akkreditierungsrat について書面調査および訪問調査研究を行った。

FIBAA、ASIIN、EASPA における調査では、以下の 5 つの点が明らかになった。

1. アカデミックの拠点としての大学と、それを実学として活用する産業界との結節点として第三者評価機関を位置づけ、両者の建設的な議論と協力のもとに、教育プログラムの質の観点と基準を定め、大学・学生・雇業者それぞれにとって意義のある大学教育と人材養成につなげる考え方が重要

2. 現状では、「専門分野別プログラム質保証」「機関別質保証」のどちらかが正解というものではなく、双方を融合した、あるいは第三局的方法論が求められている。ドイツ学長会議では、プログラム・アクレディテーションでもシステム・アクレディテーションでもない、新しい形が模索できないかという議論もでているようである。

3. その際に鍵となる要素の一つが「学習成果 (learning outcome)」ではないかと考えられる。FIBAA にしても ASIIN にしても、学習成果に強く焦点を当てている。この 2 団体に限らず、学習成果が問われるのは国際的な高等教育の傾向である。その行き着く先では、大学の「教育基盤としての機関自体の機能」の質を保証しつつ、その上で教育プログラムの質を保証する仕組みが求められる。そこでは、当該分野に関連するあらゆるステークホルダーにとって納得できる学習成果をあげることが十分期待できるかどうか問われている

4. 上記と関連して内部質保証 (internal QA)、それも、今回のテーマに即していえば、教育プログラムの内容・方法・人的物的資源・環境を含めて総合的に内部質保証の体制をさらに実質化し、強化することが課題

5. 工学のように国際的な人材流動が生じる分野や国際関係を考慮することが不可避な分野 (例：環境など) では、質保証の基準や手法のリージョナル化やグローバル化がさらに進むと考えられ、その枠組み形成に日本の質保証機関も存在感をもって参加していくことと、トップ層の大学だけではなく、学位授与を行っている高等教育機関すべてが国際的に質が問われても問題にならないだけの体質を整備する、国内外双方にベクトルを向けた取り組みがより重要である

evalag は、後に述べる ZEvA と同様に州の法律で設立されている独立行政法人であり、現在は、アクレディテーションおよびそれに関する質保証活動支援も行っている。ドイツでは、プログラム・アクレディテーションが義務化されているが、その代替措置としてのシステム・アクレディテーションも行われてい

る。システム・アクレディテーションには内部質保証が含まれ、かつて行われていた Quality Audit の流れを受ける活動となる。現時点でシステム・アクレディテーションを受けたのは 6 大学であり、他に 15~20 の大学がシステム・アクレディテーション受審準備を進めている。evalag のようなアクレディテーション機関もその活動に対するクレディテーションを受ける (6 ヶ月から 9 ヶ月かかる)。プログラム・アクレディテーションでは、6 ヶ月から 9 ヶ月かけて書面調査、訪問調査が行われ、合、条件付き合、保留、否の 4 つの結果がある。最終報告書は、合および合 (条件付き) は Web サイトで公表されるが、保留は進行中とだけ公表され、否は公表されない。否は公表されないが Akkreditierungsrat データベースには登録され、他のアクレディテーション機関を受け直すことはできない。panel メンバーのうち、当該分野の専門家は、自己点検報告書 (self study report) がドイツ語のため、基本的にはドイツ国内から、evalag が探して来て推薦する形となっている。スイス、オーストリアからも探してくることはある。大学が個別に教員名を出して推薦することは出来ない。大学は evalag の推薦を拒めない (evalag が大学との利害関係等は調査する)。学生メンバーは、学生が登録されている (プールされている) ところから学生団体 (Student Union) が推薦し選ばれる。

ZEVA は、1995 年にハノーヴァー大学の一機関として設立され、その後、ニーダーザクセン州の地域内で活動を拡大してきた。2000 年 ZEVA にアクレディテーション部門ができ、プログラム・アクレディテーションを担当することになった。アクレディテーション procedure を正式に認められたドイツ国内で初めての機関である。2008 年にドイツ政府がシステム・アクレディテーションを導入したのでそれにも対応している。システム・アクレディテーションはプログラムアクレディテーションよりお金も含めたコストはかかる。システム・アクレディテーションは、学内にプログラムアクレディテーション機関を自前で設けるようなもので、学内での Quality Management system の整備にお金と人がかかる。HRK (Hochschulrektorenkonferenz) などは、institutional audit に変えるなど、もっと大学を支援する形へのアクレディテーション全体の見直しを提言している。ZEVA のアクレディテーションにおける panel メンバー選出は evalag とほぼ同様である。ZEVA のアクレディテーション結果も evalag で述べた内容とほぼ同じとなる。

Akkreditierungsrat は、各アクレディテーション機関に対する認証活動を行っている。こ

れは各州における法律に基づくものである。アクレディテーション機関に対する認証活動 (6 ヶ月~9 ヶ月かかる) を行う panel メンバーは、高等教育関連メンバー、連邦が任命するメンバー、学生、業界団体からの推薦者、海外の専門家などであり、連邦メンバー、高等教育メンバー、海外専門家は教育大臣会議および HRK が委員を推薦する。海外専門家は、ドイツ語の問題があるため、主にオーストリア、スイス、オランダなどから選んでいる (現在は、スイスから 1 名、オランダから 1 名)。学生は Student Union から、業界団体からの委員は関連省庁会議から推薦される。アクレディテーション機関は、原則 5 年に 1 回受審する。結果としては、適、条件付き適、保留、否であり、原則全て公表する (否はまだ出ていないが出たとしても公表する)。この認証活動の基準は、ESG (European Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area) などを参考にしながら、長い時間をかけて作り上げてきたものである。Akkreditierungsrat として内部質保証の重要性は認識しており、システム・アクレディテーションがそれに適しているが、欧州内の高等教育機関は多様なので、どちらか一つと言うことにはならないと考えている。

まとめ

3 年間にわたり、欧州、米国における専門分野別教育プログラム認定・評価システムの調査を行った。欧州は、学部レベルからの教育プログラムアクレディテーションと機関としての大学に対する機関別アクレディテーションが混在しており、ドイツのように並立している場合もある。デンマークおよびドイツでは、教育プログラムアクレディテーションの場合、当該分野の専門家および学生等が参加する panel による peer review の形が取られている。専門家の選出方法として、デンマークでは受審大学からの推薦、ドイツではアクレディテーション機関による選出と方法が異なる。また、関連学協会との連携についても対応はそれぞれ異なっていた。ドイツでは内部質保証体制を重視したシステムアクレディテーションが導入されており、デンマークでも同様の仕組みへの移行が検討されている。これは世界的な高等教育機関における内部質保証重視の流れを受けたものである。一方で、スウェーデンでは教育質保証重視のため教育プログラムアクレディテーションへ移行している。今後も教育プログラムアクレディテーション、機関別アクレディテーション) システムアクレディテーション) が並立し、お互いを補っていくものと考えられる。

米国では、基本的に資格につながる教育プログラムに対しての教育プログラムア krediyteshonが行われており、関連する専門職団体がア krediyteshon機関を設定しているケースが多い。これらのア krediyteshon機関は、政府機関である USDE または全国レベルでの大学関連団体である CHEA の認証を受けた上で活動しており、USD えによる認証は連邦政府奨学金受給にもつながっている。また、教育プログラム自体が専門職につながるため、欧州よりもアウトカム重視の姿勢が強く打ち出されており、資格取得率、就職状況などがア krediyteshonの大きな要素となっている。

これら、欧州、米国の事例は、社会的、歴史的背景が異なるものの、現在、学術会議を中心に進められている分野別参照基準の活用に参加になるものと考えられる。日本においても、先ず大学内において教育プログラムという意識を固め、それらに対する内部質保証を進めるためには、欧州、米国における教育プログラムア krediyteshonの仕組みが参考になる。また、教育プログラムア krediyteshonを参考にした教育質保証活動は、機関としての内部質保証体制につながるものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 早田幸政、「米国における公共政策大学院の質保証 — “Pre-2009 NASPAA Standards” の検討を軸に—」、『法学新報』第119巻第11・12号(平成25年3月30日発行)、27頁～55頁、査読なし(要請論文)

[学会発表] (計3件)

- ① 大佐古紀雄、「ドイツにおける事例から大学のア krediyteshonのあり方を考える—訪問調査の結果から」、日本高等教育学会第16回大会、2013年5月25日、広島大学
- ② 堀井祐介、早田幸政、大佐古紀雄、「米国における専門分野別教育プログラムア krediyteshonシステムについて」、日本高等教育学会第15回大会、2012年6月2日、東京大学
- ③ 堀井祐介、早田幸政、大佐古紀雄、「デンマークにおける専門分野別教育プログラム認定・評価について」、日本高等教育学会第14回大会、2011年5月29日、名城大学、との共同発表

6. 研究組織

(1) 研究代表者

堀井 祐介 (HORII YUSUKE)
金沢大学・大学教育開発・支援センター・教授
研究者番号：30304041

(2) 研究分担者

青野 透 (AONO TORU)
金沢大学・大学教育開発・支援センター・教授
研究者番号：00202490

西山 宣昭 (NISHIYAMA NOBUAKI)
金沢大学・大学教育開発・支援センター・教授
研究者番号：10198525

姜 達雄 (渡辺達雄) (KANG DALWONNG)
金沢大学・大学教育開発・支援センター・准教授
研究者番号：20397920

早田 幸政 (HAYATA YUKIMASA)
大阪大学・評価・情報分析室・教授
研究者番号：30360738

大佐古 紀雄 (OSAKO NORIO)
育英短期大学・保育学科・准教授
研究者番号：10350373

林 透 (HAYASHI TORU)
北陸先端科学技術大学院大学・大学院教育イニシアティブセンター・特任准教授
研究者番号：20582951